

平成 28 事業年度業務実績報告の概要

■重点項目の進捗状況、成果及び評価

(1) 概況

- 島根県立大学憲章の前文に掲げる「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」、「北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学」の実現に向け、4つの重点分野を設定し積極的に取り組んだ。

(2) 重点分野及び成果

重点分野 1：社会情勢の変化や地域ニーズに対応した大学改革

- 平成 30 年度の松江キャンパス新学部設置等に向け、文部科学省への学部設置認可申請書の提出や学生確保のための積極的な情報発信など着実に準備を進めた。
- 学内外の意見を反映させた浜田キャンパス将来構想を取りまとめ、島根県および島根県立大学支援協議会に報告した。

重点分野 2：地域と協働した社会貢献の推進

- 「しまね地域マイスター」の認定に向けたカリキュラムを整備し、地域課題に取り組む実践力を持った人材の育成に着実に取り組んだ。
- 島根大学や島根県等と開催した「しまね大交流会」に 140 名の学生が参加し、学生、企業、行政が一緒になって県内の雇用創出や若者定着について考えた。
- 松江キャンパスでは、大学 COC 事業の一環で、高い実践力を持つ人材育成を図るための「履修証明プログラム」を開講し、のべ 111 名（実人数 43 名）の履修申込みがあった。

重点分野 3：学生確保、教育内容及び学生支援の充実強化

- 3 キャンパス合計で前年度より 77 校多い、473 校の高等学校訪問を行い、積極的に学生確保に取り組んだ。
- 志願倍率（実質倍率）は、浜田キャンパスでは、平成 28 年度入試（平成 27 年度実施）の 5.94 倍（3.08 倍）から 5.07 倍（2.66 倍）へ、松江キャンパスも、同 2.52 倍（1.52 倍）から 2.41 倍（1.52 倍）へとわずかに低下した。出雲キャンパスは、同 2.05 倍（1.68 倍）から 3.60 倍（2.79 倍）に回復した。
- 就職率は、浜田キャンパスが 98%、出雲キャンパスが 100%、松江キャンパスが 97.5%といずれも高水準を維持した。

重点分野 4：国際交流、海外留学等の促進

- 北東アジア地域研究センターが、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の「北東アジア地域研究推進事業」を着実に進め、国内外の研究機関との学術交流が深まった。
- 海外協定留学や語学研修、異文化理解研修、海外企業研修等の参加を促進し、3 キャンパス合計で昨年度より 47 名多い 147 名の学生が国際交流を行った。

■業務実績の評価方法

- 法人が自己評価を行い、これをもとに島根県公立大学法人評価委員会が検証・評価を実施。
- 「大学の教育研究等の質の向上」以外の中期目標項目については、5 段階で自己評価。（「教育研究等」については、評価委員会が「特筆すべき点」「遅れている点」として評価）

■実施状況

○自己評価の状況

項目 年度	社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	自主的、自律的な組織運営体制の確立	評価制度の充実及び情報公開の推進	その他業務運営に関する重要事項
H28	A (4.00)	A (3.95)	A (4.00)	A (4.10)

■総評

中期計画の達成に向けて平成 28 年度計画は十分に達成できたものと判断。

地方創生における大学の役割に期待が高まる中で、県内入学者の増加、地域人材育成のための教育プログラムの充実、卒業生の県内定着に向け一層の取り組み強化を図っていく。松江キャンパスの新学部開設を積極的に PR し学生の確保に繋げていく。